

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えを図や式に表し、説明する活動に継続して、系統的に取り組んできたため、思考・判断・表現や活用する力が付いてきている。

(2) 課題

- ・プリントやタブレットを活用した繰り返しの学習を継続して行い、基礎・基本の数の理解や計算力などの定着を目指す。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	達成率は約8割である。		
第5学年	達成率は7割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は約8割である。	
第6学年	達成率は8割を上回っている。	(第5学年時) 達成率は約7割5分である。	(第4学年時) 達成率は約8割5分である。

達成率とは、目標値^{※1}以上の正答率^{※2}だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100 (%))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・複数の繰り上がり、繰り下がりがある整数のたし算ひき算の問題で正答率がやや低くなることから、習熟不足が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。 ・第4学年では、長さや重さの測定に関する問題についてのみ目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の学習課題については、どのクラスも真面目に取り組んでいる。 ・自力解決や意見交換といった学習活動にも、意欲をもって取り組もうとする児童が増えてきている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容は習得できている。 ・図形の理解や作図に関する問題、大きな数と分数に関する問題で正答率が低いことから、他の領域に比べて習熟不足が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値を大きく上回っており、昨年度に比べて大きく向上している。 ・図形や面積に関する問題では、目標値をやや下回るか、上回っても正答率の値が低いものが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決や意見交換といった学習活動が習慣付いてきており、自分の考えをまとめて、ペアやトリオで積極的に意見交換を行っている児童も多い。 ・全体の場面での発言や発表については、個人差が見られる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・「かたちあそび」では、実際に動かして体感する活動を取り入れる。 ・たし算やひき算は計算カードやタブレットを活用して繰り返し練習して定着を図る。 ・2桁のたし算では、タブレットドリルを活用し、繰り上がりの仕方を確実に身に付けさせ、類似問題に繰り返し取り組ませる。 ・繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算の筆算では、図や位取り表などを活用し、筆算の手順についての理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題では、分かっていることを整理し、「合わせて」「のこりは」などの言葉に注目させて正しく立式できるようにする。 ・具体物やブロック操作の時間を確保し、図や立式につなげられるようにしていく。 ・ブロック操作を振り返りながら文章題をテープ図に表す練習をし、数量関係の表現ができるようにする。 ・考え方を図や文章、式など、多様な方法で表現し、交流する場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と算数を結び付けられるように導入を工夫する。 ・導入で新しい疑問や発見につながるような事例を見せ、自ら学習のめあてを設定できるようにする。 ・デジタル教材を活用し、教室内では計測できない量を視覚的に捉えさせる。 ・長さや水のかさについて、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることをとおして、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活に活用させる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の問題の処理を確実に定着させるために、必要とされる既習事項も含めた計算練習に取り組みさせる。 ・長さや重さの単位については、関連する領域や授業において既習の単位の関係を確認し、統合的に捉えられるようにする。 ・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、タブレットドリルやドリルパークを活用するなどして基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・似ている場面の既習に立ち返り、既習事項を生かしてどのようにすれば解決できるかを考えて、問題に取り組めるようにする。 ・計算の意味や仕方を、具体物や言葉、数、式、図などを用いて表せるようにする。 ・他者の考え、図や式について聞き取ったこと、読み取ったことを自分の言葉で説明する。他者の意見や活動を知り、認め合う活動をおして学習内容の理解や学び方の変容を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童個々の理解度や学習状況、単元の特性等を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、すすんで学習に取り組めるようにする。 ・デジタル教科書や具体物、ワークシート等を習熟度別クラスの実態に合わせて活用することで、確実な問題把握や多様な表現ができるようにする。 ・自力解決や意見交換、話し合い活動の場では、多様な見方や考え方を試みることを促し、自他の考えを比べるなどして、授業内のコミュニケーションの充実を図る。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・整数や小数、分数の四則計算の問題の処理を確実に定着させるために、必要とされる既習事項も含めた計算練習に取り組みさせる。 ・図形の性質や作図、面積や体積の学習等については、関連する領域や授業において、必ず既習事項の確認をするなどして定着を図る。 ・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、タブレットドリルやドリルパークを活用するなどして基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習場面や内容を生かし、そこからの類推的な考え方や演繹的な考え方から、問題解決に取り組めるようにする。 ・計算の意味や仕方を、具体物や言葉、数、式、図などを用いて表し、具体的に表せるようにする。 ・他者の考え、図や式をどう聞き取ったか、どう読み取ったかを自分の言葉で説明するなど、意見を聞き入れたり、活動から意味や意図を読み取ったりする活動を行い、学習内容の理解や学び方の変容を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童個々の理解度や学習状況、単元の特性を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、課題意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・デジタル教科書や具体物、ワークシート等を習熟度別クラスの実態に合わせて活用することで、問題把握や多様な表現ができるようにする。 ・自力解決や意見交換、話し合い活動の場では、多様な見方や考え方を試み、比較検討を加えることで、数学的コミュニケーションの充実を図る。